



学校を地域交流の場に サタデースクール

小戸神小学校

学校週五日制が定着し久しくなります。この間、子供たちなどのように休日を通すかについて、さまざまな議論がされてきました。中学校になると部活動などを通じてその時間を有意

義に過ごしているようですが、小学校では、スポーツ少年団などで活動する子供はほんの一部。さらには少子化がもたらした現象として、仲のよい友達と遊ぶにしても数キ口はなれており、

行き来することも困難になっています。

小戸神小学校(齋藤秀峰校長)では、この地域に子供の遊び場的な公施設がないこともあり、月に一度土曜日に学校を開放し、子供たちの遊び場を提供するほか、保護者や地域の方々も自由に利用し親子のふれあいの場を提供しています。

「子供たちは通常学校という授業を受ける場として意識しているため、緊張感を持って学校施設を利用していますが、サタデースクールでは朝から遊び

に来ているということもあり、のびのびと活用しています。

危険箇所を遊ぶより、学校でしたら安心ですし、皆が創意工夫しながら時間を過ごしています。

学校が週二日休みになり、その過ごし方を考えましたが、小戸神小学校流の解決法取り組みとして地域の方々にも認知されています。」とは校長先生の弁。

この取り組みは保護者・先生方のボランティアによって維持されており、この時間にPTAでは案内板の作成など、環境向上の活動なども行っています。

利用できる施設は、体育館・校庭・図書室・多目的室・コンピュータ室で、昨年整備された田村広域イントラネットの機材なども有効に活用されています。

